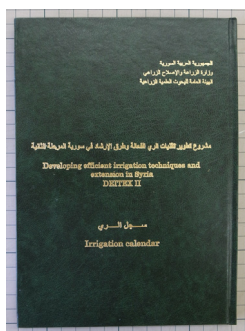


シリアの節水灌漑普及ツール <その4>

「農家による節水灌漑農業の達成」を目標に掲げる節水灌漑農業普及計画プロジェクト・フェーズ2(以下、プロジェクト)にとって、農家の実際の灌水量を把握する事は非常に重要な課題であった。農家が自ら節水灌漑を実施していく上で、彼ら自身が圃場の実態を把握することは不可欠である。しかし、農家の多くは、曖昧な記憶と勘頼りの栽培を行っており、記録を取るという習慣がない。メモを取るという農家も僅かにいたが、彼らにしても雑紙にメモする程度であり、ノートにまとめて記録するという農家は見当たらなかった。我々は、栽培記録を1冊のノートに記録し、自身の灌水量や施肥量などを数量的に把握することで、栽培改善への気付きが生まれ、その結果、節水意識の向上が期待できないかと考え、灌漑手帳を製作した。

灌漑手帳製作のきっかけは、プロジェクト当初から日本人チーム内にあった、母子健康手帳(1冊に必要な情報が詰まっており、記録もできる)の灌漑版を作りたいという思いと、ある灌漑普及員の「オマエのそのノートが欲しい」という一言であった。我々のチームでは野帳(コクヨ社製 Level Book)の愛用者が多く、何かあればYシャツの胸ポケットから野帳を取り出しメモする、という事を日常的に行っていた。普段、メモを取る習慣の無いシリア人にはそれが興味深く見えたらしく、ある日、野帳が欲しいとねだられた。そのまま野帳を渡すのでは芸が無いので、「それじゃあシリア版を作りましょう」という事で本格開発へと乗り出した。いざ手帳を作ろうとすると、用紙のサイズからページ数、体裁等々考えなければならぬ事も多く、連日カウンターパート(C/Ps)と協議を重ね、印刷所を何度も訪問しながら試作版を製作した(写真)。



野帳を意識した緑のハードカバー

他の普及ツールと同様に、まず灌漑普及員へ灌漑手帳の目的や使い方を伝えたのち、灌漑普及員が普及活動として農家へ灌漑手帳を配布した。農家には、手帳はプロジェクトのために記帳するのではなく、未来の自分のために記録するのだ、という事を強調して説明し、彼らの「やらされ感」を軽減するよう特に注意した。企画・製作段階から、農家が本当に記帳するのか、という事についての不安があったが、いざ

配布してみると農家の評判も上々であり、嬉しい誤算であった。プロジェクトでも農家を訪問する際には灌漑手帳を確認し励ましの活動を積極的に行った。また、中には灌漑普及員が農家の記録役となりインタビューを基に記帳をするという事例も見られ、コミュニケーション・ツールとしての利用法も発見された。



灌漑手帳に予想以上の手ごたえが感じられたことから、記帳活動をさらに促進させようと、灌漑手帳第2版も製作した。第2版では他の普及ツールとの連携を高めるために、流量測定キットや灌漑早見盤の使い方を記載したり、農家が自分で簡易経済分析を行えるように分析シートを加えたりと、よりプロジェクト活動に沿った実用的なものを目指した。



第2版

第2版の農家への配布を終え、いよいよこれからという2011年4月、シリアは「アラブの春」の波にのまれ、我々日本人チームは退避となり、プロジェクト活動は日本からの遠隔支援中心となってしまった。退避から1年後の2012年4月には隣国ヨルダンにC/Ps、灌漑普及員、農家らを招待しプロジェクト活動のまとめを行った。その際に農家や灌漑普及員らが持って来てくれた、ページいっぱい記録されている手帳を見た時の感激は忘れられない。彼らを取り巻く状況も考えると、本当に頭が下がる思いであった。1日も早くシリアの情勢が安定し、農家が野良仕事に専念でき、これら栽培記録が役立つことを心より願っている。



ぎっしり記録されたノート



圃場で手帳を確認